

**コロナ禍で堅調な音楽需要！再生回数は前年の1.3倍超の結果に  
2021年 音楽ストリーミング配信市場動向**  
年間2億回以上再生の楽曲のうち約4分の1がアニメ主題歌

GfK Japan（東京：中野区）は、主要音楽ストリーミング配信サイトにおける再生実績データ<sup>\*1</sup>を基に、2021年の音楽ストリーミング配信の市場概況を発表した。

**【概要】**

- ・2021年の音楽ストリーミング配信の再生回数は前年の1.3倍以上に拡大
- ・昨年に続き邦楽が市場をけん引し、分類別再生回数構成比では8割弱に達す
- ・年間再生回数4億回以上の楽曲が3タイトル

**【音楽ストリーミング配信市場は引き続き拡大】**

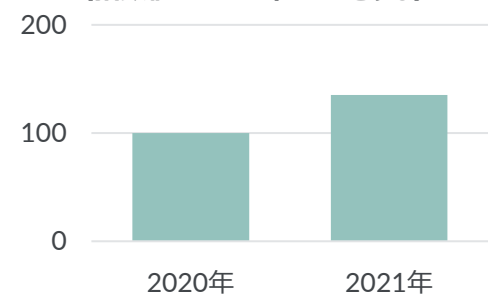
音楽ストリーミング配信市場は、ストリーミング配信の利用拡大に伴い年々成長しており、ピーク時より伸長率が下がっているものの2021年の再生回数は前年の1.3倍超となった（図1）。

楽曲に目を向けると、「ドライフラワー/優里」、「夜に駆ける/YOASOBI」、「Dynamite/BTS」の3曲がいずれも年間再生回数4億回以上を記録し、2019年、2020年に配信された人気楽曲の強さが堅調だった。2021年に配信された楽曲では「Dynamite/BTS」「怪物/YOASOBI」がともに年間再生数3億回を超え、今後の継続した試聴による再生回数の伸びが期待される。年間2億回以上再生された楽曲は、先述の曲を含め13曲あった。タイトルをみると「Cry Baby/ Official髭男dism」「廻廻奇譚/Eve」「炎/ LiSA」がランクインしており、人気アニメとタイアップした楽曲の強さが顕著だった。

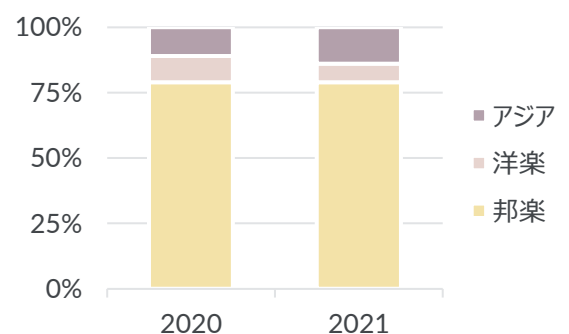
邦楽・洋楽・アジアの分類別に動向<sup>\*2</sup>をみると、邦楽は前年と比較して横ばいで安定して大きなシェアを占めた。アジアのシェアは前年比で堅調に伸びた一方、洋楽が縮小傾向だった。再生回数構成比では邦楽が8割弱、洋楽が1割弱、K-POPを含むアジアは1割強を占めた（図2）。

年間再生回数の上位100タイトルをみると、アジアは前年と変わらず11タイトル、邦楽が2タイトル増え88タイトル、洋楽は前年3タイトルだったのが1タイトルへ減少となった。

**図1.音楽ストリーミング配信 再生回数**  
(指数値：2020年=100とする)



**図2. 2021年の音楽ストリーミング配信における分類別再生回数構成比**



<sup>\*1</sup> 主要ストリーミング音楽配信サイトにおける再生実績に基づき推計

●集計対象音楽配信サイト：Amazon Music Prime/Amazon Music Unlimited / Apple Music / AWA / dミュージック月額/Google Play Music / HMV MUSIC / KKBOX / LINE MUSIC / Rakuten Music / RecMusic / Spotify / TOWER RECORDS MUSIC powered by レコチョク/ YouTube Music

●集計頻度：月次

●集計期間注記：Google Play Music 2020年12月まで、HMV MUSIC 2020年4月～2021年3月まで、dミュージック月額・RecMusic 2021年9月まで、TOWER RECORDS MUSIC powered by レコチョク 2021年10月から

●2020年のAmazon Music Prime、YouTube Musicは推計値にて算出

<sup>\*2</sup> 分類別データについては、年間再生回数上位2000タイトルを集計対象とする

本リリースに関するお問い合わせ先

GfK Japan  
tel : 03-5350-4623  
Email : [info.jp@gfk.com](mailto:info.jp@gfk.com)  
[www.gfk.com/jp/](http://www.gfk.com/jp/)